

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東北公益文科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウホクコウエキブンカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ1・インターンシップ2・インターンシップ3・インターンシップ4
	学部・研究科等名	公益学部
	担当教職員名・役職	講師 小野 敦
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	129
	受入企業等数	88
	受入企業等名	官公庁、企業(金融、情報通信、卸・小売、不動産・建設、製造、サービス等)、社会福祉法人、その他(社長インターンシップを含む)
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習や受入先への事前訪問等を通じ実習目的を明確にした上で、実習においてその目的の達成に向けて取り組む。社長インターンシップにおいては、地元企業の社長に密着し、判断力や広い視野を養う。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1科目あたり2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1年次の後期から3年次まで、最大4回履修することができ、修得するごとに「インターンシップ1」「・・・2」の順で単位が認定される。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	自己のスキルの振り返り、パソコン研修、マナー研修、実習先の事業内容・組織体制・経営理念等の概要の調査、業界の動向の調査などを行う。また、この実習で身につけたいスキルや学習課題を明確にする。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習で挙げた学習課題についての学び、気づき、そして今後に向けた抱負をレポートにまとめる。また、インターンシップで身につけたスキルや、もっと身につけるべきと感じたスキルについて、自己評価を行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	平成29年度は、任意にピックアップした17社を訪問し、学生と実習担当者から状況に関するヒアリングを実施した。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事後学習において自己評価書を作成し、どのようなスキルが伸びたかなどを確認させたうえで、実習報告会を実施し、自分や他の履修生の実習成果を振り返る機会を設けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	プログラムによって1週間～3週間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	地元企業等に幅広く案内し、1週間から3週間の受入を依頼している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習中に学生が作成する実習日誌に担当者のコメントを記入してもらい、最終的に実習先の評価書とあわせて提出していただいている。また、実習報告会の後に、本学のプログラムについて意見を伺う機会を設けている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.koeki-prj.org/syllabus
問い合わせ先	大学等名	東北公益文科大学
	担当部署名	教務学生課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	白田 裕司
	電話番号	0234-41-1116
	メールアドレス	kyomu@koeki-u.ac.jp